



病院・施設担当理事

北 徹

□病院担当

1. 高度先端医療への取り組み

①定位放射線がん治療装置「ノバリス」の導入
平成18年12月、定位放射線がん治療装置「ノバリス」を、国立大学で初めて導入し、頭部・頸部だけでなく、脊椎や肺、肝臓、前立腺等の体幹部および外科手術が難しい部位の腫瘍への治療に努めています。本装置により年間約2千人の治療を行っておりますが、全国的にも限られた装置であり、患者さんも全国から受診され、大学病院としての使命を果たしています。

②医師主導治験の実施

平成17年8月に、肝臓細胞増力因子（HGF）を使って劇症肝炎の患者の肝臓を再生させる世界初の治療について、国内初となる医師主導治験を行いました。現在では、産官学が協力・連携した新たな臨床プロジェクトへの支援を行っています。

2. 社会的要請の強い医療の充実

①京大病院がんセンターの設置

平成19年4月、京大病院がんセンターを全国の大学病院で初めて設置しました。

当センターは、「外来がん診療部」「入院がん診療部」「がん診療支援部」で構成し、従来の臓器別診療ではなく、関係する診療科が協力し

て、患者さんに最適な治療方針を迅速かつ集学的・横断的に決定した治療を行っています。

また、平成19年度文部科学省がんプロフェッショナル養成プラン（5年間）に選定され、近畿2府5県におけるがん治癒率の向上と地域連携体制の確立および、がん専門医、がん医療専門職の養成に努めています。

②医師養成機関としての地域医療への貢献 ・初期臨床研修プログラム

前期研修医を対象とした臨床研修プログラムに、京大独自の小児科重点プログラム、産婦人科重点プログラム、地域保健・医療重点プログラムを構築し、医師不足が深刻な診療科やへき地・地域医療の発展に貢献できる指導医の養成を目指しています。

・専門医養成プログラム

平成20年度文部科学省大学病院連携型高度医療人養成推進事業（5年間）に選定され、後期研修医を対象として、京滋・北陸、阪奈、神戸、中国・四国の6大学病院と、それぞれの地域において若手医師研修に実績のあるマグネット病院群との機能的連携を強化し、高度医療教育と実践的専門医教育をシームレスにつなげ、優秀な専門医や臨床研究者の育成に取り組んでいます。



定位放射線がん治療装置「ノバリス」



上：ウエルネスエリア
下：リニューアルしたレストラン



七タコンサートの様子

3. さらなる医療サービスの向上

①看護体制の充実

平成19年12月より7：1看護を実施し、重症患者の円滑な受け入れと、より安心で安全な医療の提供に努めています。

②病院機能評価の受審

平成19年10月に第三者による病院機能評価（Ver.5.0）を受審し、20年2月に認定証の交付を受けました。この評価を通じて、病院機能の問題点等の客観的把握が可能となり、教職員の改善向上への意識改革が図れたことで、さらなる良質な医療の提供に努めています。

③患者アメニティの向上

平成19年4月にコンビニエンスストアの設置

し、レストランをリニューアルし席数を増やすとともに、外来棟正面玄関横にくつろげる机・椅子を配置したウエルネスエリアを設置し、外来患者さんへのアメニティ向上に努めました。

④積貞棟（寄附病棟）の着工

山内溥氏（任天堂株式会社相談役）からの多額の寄附を賜り、寄附病棟を建設することとなり、京都市景観審査会の特例第1号の承認を得て、平成20年7月に着工（22年3月竣工）となりました。この病棟は、高度先進医療を目指す本院にふさわしい「がん診療中心の病棟」とするとともに、患者中心のアメニティの高い療養環境の確保を図る予定にしています。



積貞棟（寄附病棟）完成イメージ



iPS細胞研究拠点施設 完成イメージ



課外活動施設（ボックス棟）完成イメージ

□施設整備

本学の「中期目標・中期計画」の達成に向け、教育・研究・医療活動の基盤となる施設整備を以下の五つの基本方針に基づき推進しています。

○安全安心な教育・研究・医療環境の再生

本学は耐震性が劣る老朽施設を抱えており、大きな課題となっています。そこで「京都大学耐震化推進方針」を策定し、耐震性等の安全性に問題のある施設等、教育・研究・医療活動に著しく支障がある施設の再生を最優先課題とし、耐震化を積極的に進めています。平成18年度当初には63%であった耐震化率を76%まで向上させ、平成22年度末には93%の耐震化を目指しています。

○新キャンパスの整備

新キャンパスである桂キャンパスは、吉田・宇治キャンパスとともに本学の主な教育・研究拠点として平成11年度より整備を進めており、現在、全体計画の約半分の整備を終えたところです。

未整備である工学研究科の物理系及び情報学研究科の整備は、国の財政事情を反映し依然厳

しい状況ですが、PFI導入の検討など、早期の整備完了に努めています。

○吉田本部構内の再配置

桂キャンパスの整備に伴い空きスペースとなる吉田本部構内の施設について、既存スペースの有効活用の観点から策定された「吉田本部構内の再配置計画」に基づき、構内の再配置を進めています。

○附属病院の整備

患者中心の開かれた病院として安全で質の高い医療の提供、新しい医療の開発と実践を通じた社会貢献、専門家としての責任と使命を自覚した人間性豊かな医療人の育成を目的とした京大病院の基本理念に基づく医療を果たすため、附属病院の整備を推進しており、寄附金により新病棟整備の第Ⅰ期計画である積貞棟（寄附病棟）の整備を進めています。

○大学として特に戦略的に取り組む整備

大学として特に戦略的に取り組む整備として、再生医療に革命的な発展を促すことが期待されるiPS細胞研究の全国的な研究拠点となる「iPS細胞研究拠点施設」の整備を進めています。



Toru Kita

□施設に関するシステム改革の取り組み

全学的視点に立った施設運営やスペースの弾力的な活用、大学の自助努力に基づく整備など、施設に関するシステム改革を推進しています。

○スペースの有効活用

スペースマネジメントにより吉田本部構内の再配置計画の見直しを行い、「総合研究1号館・プロジェクトラボ」にスペースチャージを課したレンタルスペースを確保し、本年度より運営を開始します。

○新たな整備手法

「京都大学重点事業アクションプラン2006～2009」を策定し、教育、研究、学生支援、医療支援、広報・社会連携事業等を推進するため、目的積立金等で学生支援施設などの整備を進めています。

また、平成20年10月に完成予定の「稲盛財団記念館」の寄附受け入れなど、大学の自助努力に基づく整備に努めています。

○省エネルギー対策

エネルギー消費量、CO₂排出量削減のため「京都大学環境賦課金方針」を策定し、環境賦課金制度を導入しました。本年度より、これにより得られる環境賦課金を原資とし、設備等の省エネルギー化を進めます。

○キャンパス環境整備

時計台記念館北側にあった空地进行を、既存の桜を残し現在の景観を確保しつつ、憩いの場として活用するため、キャンパス環境整備を実施しました。



安全安心な教育・研究・医療環境の再生（宇治研究所本館）



白浜海の家



時計台記念館北側